

株主の みなさまへ

第62期
営業のご報告

2022年4月1日～2023年3月31日

株式会社島精機製作所

証券コード: 6222

NEWS

カシミア・シルク混合糸「SPUMA」が好評～東洋紡糸工業株式会社

子会社である東洋紡糸工業(株)が昨年、販売を開始した新素材SPUMAが好評です。SPUMAはカシミアとシルクの混合糸で、春や初秋にも適応できるオールシーズン向け素材として開発。光沢感がありさらっとした肌触りです。高級素材として日本国内の人気ブランドでも採用されています。

SPUMAを使用した商品をウェブサイトから購入可能です。

<https://shop.toyoboshi.co.jp/>



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地
TEL(073)471-0511(代表)

<https://www.shimaseiki.co.jp/>

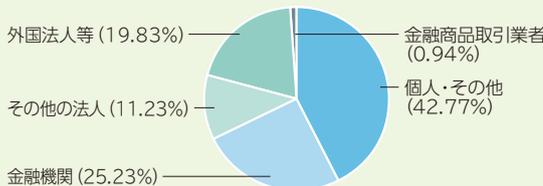


ホールガーメントおよびWHOLEGARMENT等は株式会社島精機製作所の登録商標です。
この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。

会社概要 (2023年3月31日現在)

商号 株式会社島精機製作所
(英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
創立 1962年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員数 1,378名(連結1,817名)

所有者別分布 (2023年3月31日現在)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告
下記当社ホームページに掲載
(<https://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

(ご注意)
証券会社に口座をお持ちの株主様は、住所変更の届け出や単元未満株の買い取り・買い増し等の各種お手続きに関しては、お取引のある証券会社等に直接お問い合わせください。

市場の回復傾向で売上は伸長した一方、部品・材料の調達難が継続。サステナビリティへの取り組みも加速します。

代表取締役社長
島 三博



●当期の総括

当期(2023年3月期)は、世界各地での経済活動の再開にとまなない、抑制されていた消費・生産マインドが回復に向かったことで、アパレル・ファッション業界においても投資への意欲が回復基調となりました。こうした状況下、当社グループは中期経営計画「Ever Onward 2023」に基づき、サステナブルなもの創りを支援する製品・サービス・ソリューションの提案活動を世界各地で展開しました。主力市場のうち、中国市場は上海のロックダウンなどの影響から低調だったものの、中国以外のアジア地域や欧州、中東、日本などで設備投資が回復し、受注が堅調に伸びた結果、通期の売上高は前期比20%以上の増収となりました。

一方で、前期に発生した部品・材料の調達難はなかなか解消せず、年末頃まで納期が確定できない状況が続いたことで生産面でのオペレーションコストを押し上げました。加えて、各種部材・原材料価格や物流費の高騰が利益面に影響しました。この対応策として、代替部品の調達とそれに合わせた設計変更など、安定した生産・供給に向けた取り組みやコスト削減施策を実施した結果、利益率は回復傾向となり、連結営業利益、経常利益はいずれもマイナスではあるものの前期比では改善しました。ただし、親会社株主に帰属する当期純利益については、将来的な負担となる固定資産の減損損失、関係会社株式評価損などを特別損失として処理したため前期比で大幅マイナスとなりました。

Revolution / Rebornを体現する「R」シリーズの機種を連続して開発

当社は、中期経営計画「Ever Onward 2023」のキーワードである「変革(Revolution)」と「再生(Reborn)」に基づき、従来機の延長線上ではない全く新しい開発に注力しています。昨年リリースしたホールガーメント横編機SWG®-XRに引き続き、シェアを拡大している自動裁断機P-CAM®、当社の出発点である自動手袋編機においても、基本設計から見直した「R」シリーズを発表しましたのでご紹介いたします。



P-CAM R

自動裁断機P-CAMシリーズでは、「世界一の裁断技術への挑戦」をコンセプトに従来機の基本設計を一新した「P-CAM R」を開発しました。

生産部門や営業部門も加わり、お客様が抱える課題を徹底的に調査し、新たなテクノロジーを駆使することで裁断品質の向上を実現。グローバル市場に向け、裁断工程における環境負荷を低減し、生産性をさらに向上させました。

今後は、世界に広がる横編機・デザインシステムの販売網を生かし、世界トップを目指していきます。

これらの結果、赤字計上とはなりましたが、株主の皆様への配当については安定配当維持の基本方針を鑑み前期と同じ年間10円で実施させていただきました。

●次期以降の展望

次期(2024年3月期)も世界各地で需要の回復が続くと予想しています。最大市場の中国でもようやく経済が動き出し、内需向けの高付加価値製品への転換が加速することで当社製品への需要も拡大が期待されます。

直近の課題は安定調達・安定生産体制の確立です。部材調達難の状況は徐々に解消されつつあるものの、原材料価格は依然として高止まりしている状態で、コスト高の要因となっています。サプライヤーとの信頼関係を従来以上に深めつつ安定的な調達・生産体制を整え、コストダウンに努めていきます。

一方、開発・営業面では積極的な攻めの戦略を推進します。この6月にはイタリア(ミラノ)で4年に1度の「ITMA 2023」が、11月には中国(上海)で「ITMA ASIA+CITME」が開催されます。この2つの国際繊維機械展示会に向けて

これまでに入念な準備を進めてきており、会場では革新的な新製品の発表によって大きなサプライズを巻き起こします。合わせて営業活動も強化し、全世界のお客様への提案活動を積極的に展開していきます。

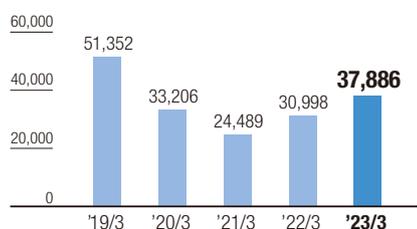
以上のような守りと攻めの戦略を着実に推進することで、次期は黒字回復を必ず達成できると考えています。

●株主の皆様へ

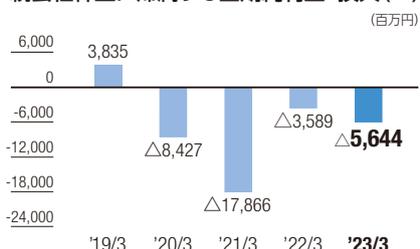
需要が戻ってきたとは言え、アパレル・ファッション業界は依然、大量生産型ビジネスモデルからの脱却という根本課題を抱えています。サステナブルかつクリエイティブな産業になるには、独創性の高い商品を、タイムリーに、必要な量だけ製造・提供できる新たなビジネスモデルの構築が不可欠です。

当社の製品・サービスで業界の変革を力強く支援していくためには、よりスピード感をもって事業を推し進める必要があります。さらなる意識改革をおこない、意思決定の迅速化に取り組んでいきますので、皆様には今後とも当社グループへの温かいご理解、ご支援をお願い申し上げます。

売上高



親会社株主に帰属する当期純利益・損失(△)



1株当たり配当金



SPG-R

自動手袋編機は、当社の原点ともいえる機械です。

その中でもSPG®シリーズは、1981年以降、大幅な変更がありませんでしたが、今回、さらなる商品力の向上を目指した新機種、全自動パイル手袋編機「SPG-R」を開発しました。

専用針を使わずに安定したパイル編成を可能にし、多くの最新機能の搭載により優れたパフォーマンスを実現させました。加えて、メンテナンス性や編成効率化などお客様の使いやすさも桁違いに向上しています。

ホールガーメント横編機SWG-XRにおいても、キャリッジを停止せず色糸の切替を可能にする画期的なオプション「i-DYCS」を開発。最大44色の多色柄に対応します。

アパレル・ファッションに限らず、多様化するニーズに応えるべく、今後も機能デザインの向上を追求してまいります。



SWG-XR

CSR/ESGの取り組み

当社は、企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)として、環境、社会、ガバナンス(ESG:Environment, Social, Governance)の課題解決に向けて積極的に取り組んでいます。その取り組みの中からいくつかをご紹介します。

紙から作った糸をリリース

環境

社内ベンチャー制度を利用してリサイクル素材ブランド「ReMateri®(リマテリ)」を立ち上げ、牛乳パック由来の糸「REPAC(リパク)」をリリースしました。紙糸は、和紙を細く裁断し糸にしたもので、高機能ながら環境に優しい素材として注目されています。

また、2023年2月、当社は日本製紙(株)様、トスコ(株)様とともに紙糸「Cu-TOP™アオ」を共同開発。Cu-TOPアオは、紙糸に銅イオンで抗ウイルス・抗菌・消臭という高機能を付与しており、医療用途への提案も進めています。

写真：紙糸「Cu-TOPアオ」

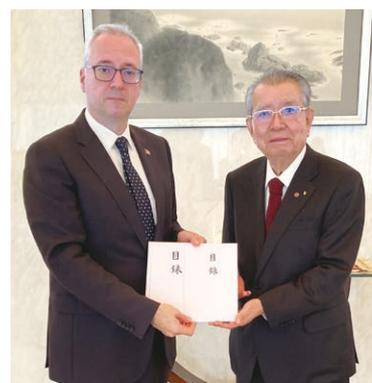


トルコ・シリア地震の被災地に義援金

社会

2023年2月、トルコ南東部を震源とした大地震が発生しました。

この地震を受け、在和歌山トルコ共和国名誉総領事である島 正博が駐日トルコ共和国大使館を訪問。被災地の1日も早い復旧・復興を願い、社員、労働組合からの義援金と合わせ350万円を寄付しました。



写真：コルクット・ギンケン特命全権大使と島*

※第62回株主総会にて代表取締役会長を退任し、名誉会長に就任いたしました。

地元の社会福祉協議会に備蓄品を寄付

社会

2023年4月、当社は災害用備蓄品を本社のある和歌山市社会福祉協議会へ寄付しました。

当社では、災害備蓄品として長期保管している非常食について、賞味期限到来の6カ月前を目途に入れ替えをおこなっています。今回、フードロス削減と食品の有効活用を目的として、パン、ごはん約930食分を提供いたしました。

サステナビリティ委員会を設立

ガバナンス

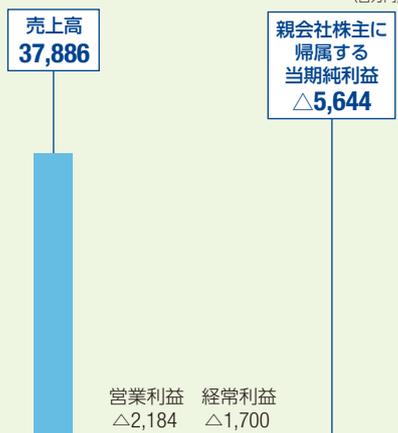
2022年6月、当社は社長が委員長を務め、執行役員で構成される「サステナビリティ委員会」を設立しました。

この委員会は、サステナビリティ推進の取り組みを強化すべく設立され、経営層と連携した意思決定の実施を目的としています。今後、環境、社会、経済等に関する課題に対応し、施策の実行、活動進捗の管理をおこなってまいります。

連結財務状況

① 損益計算書の概要

(百万円)



(2022年4月1日～2023年3月31日)

② 貸借対照表の概要

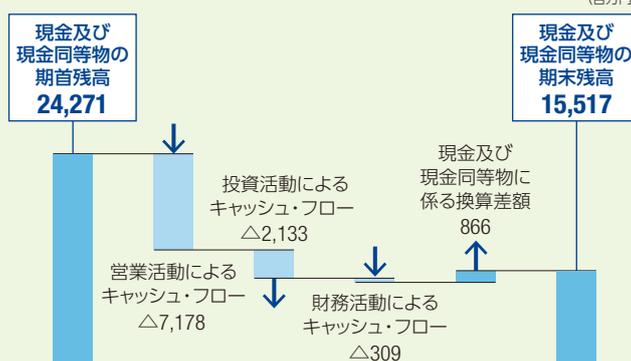
(百万円)



(2023年3月31日時点)

③ キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)



(2022年4月1日～2023年3月31日)